

1-5

主題 御岳園にきてください。

地域ネットワーク

副題 地域のカ インフォーマルサービス まだまだある地域の力

地域のストレングス

研究期間 12ヶ月

事業所 社会福祉法人 武尊会 特別養護老人ホーム御岳園

発表者：ケアワーカー 原島 香織

アドバイザー：ケアワーカー 渡部 かおり

共同研究者：ユニットリーダー 白石 貴之 ユニットリーダー 古屋 智子

電 話 0428-79-0802

メール m-soudan@busonkai.com

FAX 0428-79-0803

URL http://www.busonkai.com/mitakeen/

今回発表の
事業所や
サービスの
紹介

東京の奥座敷・御岳溪谷を眼下に、四季折々の花々や新緑・紅葉を眺めることができる自然の中、特別養護老人ホーム御岳園があります。入所定員は60名、全室13.22㎡（約8畳）の個室で、8ユニットに分かれています。1ユニット7名から8名の構成になっています。

《研究前の状況と課題》

ユニットケア施設として開設し、ユニットケアリーダー研修の実践としてユニット活動を取り組む。

- ユニット活動として、料理活動、折り紙、歌、昔遊び等のレクリエーションを行っていたが、職員不足や職員の力不足により活動がマンネリ化していた。
- 利用者対応や軽作業のボランティアを募集していたが、地域性から、老人ホームに対する偏見や家庭でも高齢者を抱えているという事情があり、ほとんど定着させることができなかった。

このような状況の中、どうすれば利用者が毎日いきいきと笑顔で生活できるか？いかにしてボランティアを定着させるか？という課題があった。

《研究の目標と期待する成果》

- 地域社会には「待つ」のではなく、「声をかける」。
- 地域の特性を活かし 地域にアンテナをはる。
- 職員や家族、地域の人へ声をかける。そのことにより御岳園を認識して頂く。
- ボランティアについては団体でも、個人・学生でも受け入れる。その方ができることを確認し、傾聴でも受け入れるようにした。



- 多くの人に声を掛け、地域のストレングスを発見していく。
- ボランティア活動、クラブ活動後には活動日誌を書いて頂き、次回の内容に反映させていく。また日誌については、他のボランティアの意欲向上に繋げる為、いつでも閲覧できるようにしていく。

《具体的な取り組みの内容》

・御岳園はボランティアを受け入れる施設である
ことの認識をもってもらう。

・地域への声掛けの対応として

①地域内の保育園 小学校へ声をかける。

②施設の全体行事への参加を地域の方々に促す。

→参加して頂いた方々にはお礼状を送っている。

（学校の朝礼でお礼状を読まれ参加した子どもが喜ばれた。また、家庭に持ち帰り老人ホームの良さを話し親から施設に喜びの声が帰ってきた。）

・ボランティアの力の活用

① 音楽クラブ・書道クラブ・

② 美容ボランティア・カメラマン・車椅子ボランティア・マッサージボランティア・賛美歌ボランティア・園芸ボランティア・縫い物ボランティア

・インフォーマルサービスから

家族会を発足し、できることをして頂く。

・身辺整理のボランティア・手芸クラブ

・演奏ボランティア・腹話術

☆すべてにおいて参加した方々に感謝の言葉を全職員がかけるようにした。

《取り組みの結果と評価》

クラブ活動・演芸もご利用者がとても喜ばれた。
参加した方々も実施したことに喜びを感じていた。

クラブ活動はすべて1ヶ月に1回の活動として定着した。

自己満足のボランティアと思われる場合は受け
ないようにした。そのためには事前に担当者との
内容確認が必要であると思った。

ご利用者との関わりを大切にしてくれるボラン
ティア（利用者の名前を覚えてくれる、利用者
に声をかけてくれる・・・）がとても大事である。イ
ンフォーマルボランティアは傾聴もとても上手
で、ご利用者とゆったりとした時間を持ってくだ
さるようになった。ボランティアが新たなボラン
ティアに発展していくケースもあった。一例とし
てマッサージボラや園芸ボラの方々が餅つき
の手伝いに来て下さった。それにより職員全員、安
全配慮に集中できた。

《まとめ》

イベントや行事は地域やボランティアの力を借
りすることで、利用者の笑顔がたくさんみられるよ
うになった。

私たちケアワーカーも、ゆとりができ、日常生活
をしっかり支えることができ、笑顔で利用者に関
わるできるようになった。

今後近所の方々が来やすい施設にしていき特養
のイメージが変わるようにすることが目標であ
る。

《提案と発信》

【メモ欄】追加資料 有 無

注：参加者が自由に記入できるスペースです。空欄のまま提出下さい。